

執務用

土地分類基本調査

三津・今治西部

5万分の1

国 土 調 査

広 島 県

1 9 9 0

は　じ　め　に

限りある国土を有効に利用するためには、その土地の属性を科学的方法で調査し、統一的に把握することが何より必要です。

こうした観点から、県は、昭和51年度から国土調査法に基づく土地分類基本調査を実施していますが、昭和63年度は5万分の1地形図「三津」及び「今治西部」図幅の地域を調査しました。これがその成果です。

この調査の実施に当たって御協力をいただいた関係者各位に対し深く謝意を表するとともに、この報告書が、今後、土地利用の企画立案に当たって広く活用されることを希望します。

平成2年3月

広島県企画振興部長

横 内 正 明

〈参考・昭和63年度までに調査した図幅〉

昭和51年度	「海田市」
昭和52年度	「庄原」, 「大竹」
昭和53年度	「広島」, 「津田」
昭和54年度	「乃美」, 「厳島」
昭和55年度	「府中」
昭和56年度	「尾道・土生」
昭和57年度	「可部」
昭和58年度	「竹原」
昭和59年度	「呉」
昭和60年度	「福山・魚島」
昭和61年度	「加計」
昭和62年度	「井原」
昭和63年度	「三津・今治西部」

目 次

まえがき	
総 論	
Ⅰ 位置及び行政区画	1
1 位 置	1
2 行政区画	1
3 市町別面積	2
Ⅱ 地域の特性	3
1 地 勢	3
2 気 候	3
3 土地利用の概要	4
4 人口・世帯数	6
5 交 通	7
Ⅲ 主要産業の概要	8
1 農 業	9
2 林 業	11
3 水 産 業	12
4 商 工 業	13
Ⅳ 開発の現況と方向	14
各 論	
Ⅰ 地形分類図	15
Ⅱ 表層地質図	26
Ⅲ 土 壌 図	33
Ⅳ 水系及び谷密度図	46
Ⅴ 傾斜区分図	48
Ⅵ 土地利用現況図	49

ま え が き

- 1 この調査は、広島県が事業主体であり、広島県土地分類基本調査研究会（広島大学）の協力を得て行ったものである。
- 2 この調査は、自然条件のうち土地の基本的性格を形成している地形、表層地質、土壌の3要素を基礎とし、これに傾斜区分、水系・谷密度、土地利用現況を加味し、その結果を相互に有機的に組み合わせることによって科学的な土地利用の可能性を分類するものである。
- 3 この調査成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
- 4 この調査の実施、成果の作成機関及び担当者は、次のとおりである。

調査成果の作成機関及び担当者

指 導	国土庁土地局国土調査課			
総 括	広島県企画振興部地域振興課	課 長	菅 原 良 郎	
		土地対策係長	巳之口 敬 三	
		主 事	坂 本 聰	
地形調査	広 島 大 学 文 学 部	教 授	藤 原 健 蔵	
	総合科学部	助 教 授	堀 信 行	
	文 学 部	助 手	牧 野 一 成	
表層地質調査	広 島 大 学 理 学 部	研 究 生	柴 田 喜 太 郎	
土壌調査	広 島 県 立 農 業 試 験 場	土壌肥料部長	佐 近 剛	
		主任研究員	中 澤 征 三 郎	
		主任研究員	宮 地 勝 生	
		研 究 員	松 浦 謙 吉	
		研 究 員	谷 本 俊 明	
	広 島 県 立 林 業 試 験 場	育種開発部長	入 口 誠	
		主任研究員	田 辺 紘 毅	
		研 究 員	升 原 一 介	

水系谷密
度調査

広島大学文学部教授 藤原健蔵
総合科学部助教授 堀信行
大学院生 菅浩伸

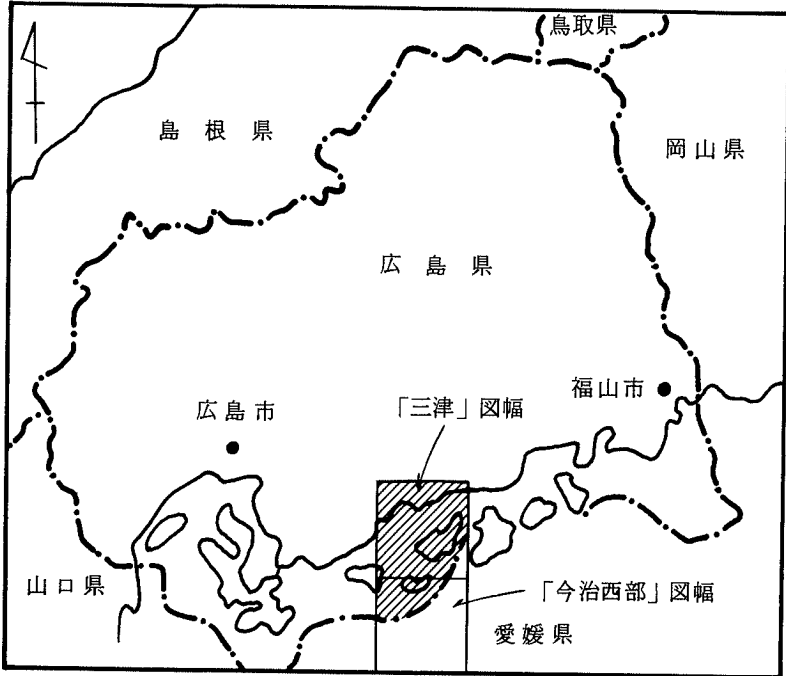
傾斜区分
調査

広島大学文学部教授 藤原健蔵
総合科学部助教授 堀信行
文学部学部生 町田伸一

土地利用
現況調査

広島県林務部林政課課長補佐(兼) 土井一郎
森林計画係長 森川豪
広島県立農業試験場主任研究員 中澤征三郎
研究員 谷本俊明

位置図



總

論

I 位置及び行政区画

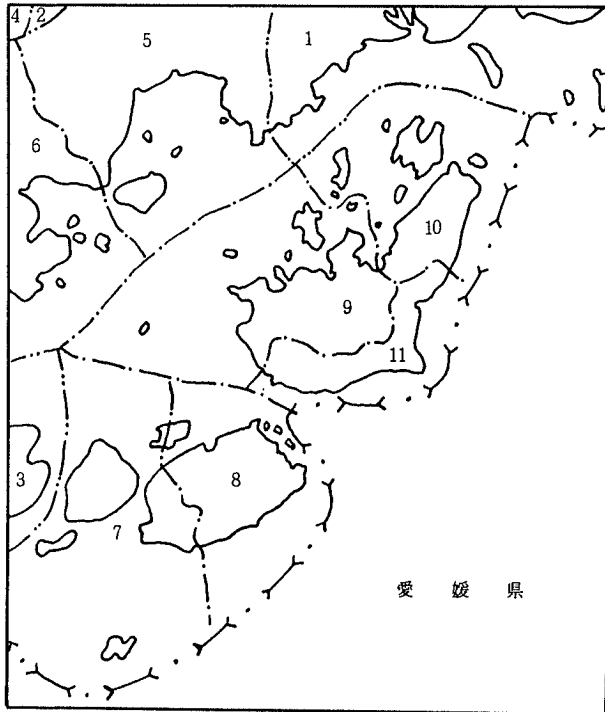
1 位置

この図幅は、広島県の南部中央に位置し、経緯度は東経 $132^{\circ}45' \sim 133^{\circ}0'$ 、北緯 $34^{\circ}0' \sim 34^{\circ}20'$ で、図幅内の広島県域面積は 126 km^2 である。

2 行政区画

この図幅内には、竹原市、東広島市、安芸郡蒲刈町、賀茂郡黒瀬町、豊田郡安芸津町、安浦町、豊浜町、豊町、大崎町、東野町及び木江町の2市9町が含まれている。

図 - 1 行政区画図



- | | | | |
|-----------|------------|-----------|---------|
| 1. 竹原市 | 2. 東広島市 | 3. 安芸郡蒲刈町 | |
| 4. 賀茂郡黒瀬町 | 5. 豊田郡安芸津町 | 6. 安浦町 | 7. 豊浜町 |
| 8. 豊町 | 9. 大崎町 | 10. 東野町 | 11. 木江町 |

3 市町別面積調べ

この図幅内の市町別面積は、竹原市 21.95 km²、東広島市 0.15 km²、蒲刈町 3.90 km²、黒瀬町 0.05 km²、安芸津町 37.71 km²、安浦町 14.86 km²、豊浜町 11.61 km²、豊町 14.07 km²、大崎町 20.42 km²、東野町 12.64 km²、木江町 10.08 km²である。

なお、東広島市及び黒瀬町は図幅内に含まれる面積が狭小なので、以下の記述は省略する。

表－1 市町別面積

(単位：km²，%)

市 町	図 幅 内 面 積		市町全面積 (B)	$\left(\frac{A}{B}\right) \times 100$
	実 数 (A)	構 成 比		
竹 原 市	21.95	14.9	118.21	18.6
東 広 島 市	0.15	0.1	288.45	0.1
蒲 刈 町	3.90	2.6	18.81	20.7
黒 瀬 町	0.05	0.0	63.84	0.1
安 芸 津 町	37.71	25.6	65.06	58.0
安 浦 町	14.86	10.1	63.53	23.4
豊 浜 町	11.61	7.9	11.61	100.0
豊 町	14.07	9.5	14.07	100.0
大 崎 町	20.42	13.8	20.42	100.0
東 野 町	12.64	8.6	12.64	100.0
木 江 町	10.08	6.8	10.08	100.0
合 計	147.44	100.0	686.72	21.5

資料：建設省「昭和63年全国都道府県市区町村別面積調」（昭和63年10月1日）

(注)：図幅内面積は、5万分の1地形図をプランニメーターにより計測したものである。

Ⅱ 地 域 の 特 性

1 地 勢

県中南部に位置する本図幅は、賀茂台地の南縁にあたる県本土部と芸予諸島・大崎下島・豊島をはじめとする島しょ部からなる。

県本土部は、洞山山地・蚊無奥山山地（標高 400～540 m）等の南縁地域及び小規模に発達する瀬戸内海沿岸低地からなる。山地は大部分が流紋岩からなる中起伏山地であり、安芸津・安浦町境の高野川流域（茂助山山地）では、急峻な谷を穿っている。また、瀬戸内海沿岸低地は、竹原市街地の南方にある賀茂川河口部の干拓地をはじめ、中小河川による谷底平野・三角州、及びその海側の干拓地・埋立地からなる。

島しょ部の地形については、大崎下島・豊島・上蒲刈島の地域は、地質条件からみると、古生層・流紋岩・花崗岩と様々であるが、300～450 m程度の比較的急峻な中起伏山地とごく僅かの平野部からなり、谷底平野の発達の様式など地形的パターンが単調である。

これに対して大崎上島、特にその北岸では、東側が急斜面、西側には緩やかな斜面を持つ、非対称山稜の小起伏山地、中央部は低地および丘陵地となっている。山地及び丘陵地内の谷底平野も複雑に発達しており、地形的パターンが複雑である。

島しょ部の平野についてみると、大崎下島・豊島・上蒲刈島及び大崎上島南部では、谷が海に面するところに小規模に発達するのみで、その面積は小さい。干拓地・埋立地も存在するが、その規模は小さい。これに対して、大崎上島北岸では、干潟や遠浅の海岸の存在から大規模に干拓が行われ、平野が拡大されている。

この地域は、リゾート開発に関連して、注目を集めており、図幅西部に位置する安浦町のグリーンピア安浦はその先駆けであるが、自然の地形を活かしながらも、やはり開発に伴う地形改変は避けられない。

2 気 候

この図幅内の地域は、典型的な瀬戸内式気候である。

表-2に示すとおり、気温は四季を通じて一般に温段で穏やかであり、年候水量も 1,000 mm～1,200 mm程度と寡雨である。

表一 2 月別気象状況

(単位：℃，mm)

昭和63年		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	63年 平均
最高 気温	竹原	9.9	8.1	10.5	15.2	19.8	22.7	26.4	28.3	25.9	20.9	15.0	11.3	17.8
	久比	9.6	8.2	10.8	17.0	21.8	25.1	29.3	30.1	26.5	20.9	14.9	11.0	18.8
最低 気温	竹原	3.4	1.1	3.7	8.5	13.2	18.2	22.2	23.2	20.4	13.6	7.3	3.2	11.5
	久比	2.9	0.7	3.2	7.8	12.5	18.0	22.4	22.5	19.5	13.1	7.2	3.0	11.1
平均 気温	竹原	6.6	4.8	7.5	12.1	16.3	20.3	24.1	25.6	23.1	17.1	11.1	7.3	14.7
	久比	6.2	4.7	7.3	12.7	16.9	21.3	25.4	25.9	22.9	16.9	11.2	7.2	14.9
降 水 量	竹原	28	28	104	98	137	358	102	37	137	51	11	4	計 1,095
	久比	34	45	114	119	145	400	64	43	151	58	32	4	計 1,209

資料：広島地方気象台「広島気象年報」

注：久比観測所の所在地は、豊田郡豊町久比である。

3 土地利用の概要

土地利用の概要を地目別にみると、表一3のとおり、行政区域全面積の60.7%が森林で、農地17.0%、宅地3.3%、雑種地2.4%、その他16.6%となっている。

本土部では、安芸津町の70.1%をはじめとして森林の比率が高くなっている。

これに対して、島しょ部では、豊町の54.6%をはじめとして畑を中心に農地の比率が高くなっている。

表－3 土地利用の概要

(単位：ha, %)

市 町	総面積	宅 地	農 地			森 林	雑種地	その他
			合 計	田	畑			
竹原市	11,821 (100.0)	431 (3.6)	1,160 (9.8)	684 (5.8)	476 (4.0)	8,164 (69.1)	195 (1.6)	1,871 (15.8)
蒲刈町	1,881 (100.0)	51 (2.7)	506 (26.9)	11 (0.6)	495 (26.3)	931 (49.5)	25 (1.3)	368 (19.6)
安芸津町	6,506 (100.0)	177 (2.7)	806 (12.4)	302 (4.6)	504 (7.7)	4,559 (70.1)	44 (0.7)	920 (14.1)
安浦町	6,353 (100.0)	208 (3.3)	560 (8.8)	416 (6.5)	144 (2.3)	4,246 (66.8)	420 (6.6)	919 (14.5)
豊浜町	1,161 (100.0)	25 (2.2)	413 (35.6)	— (—)	413 (35.6)	537 (46.3)	1 (0.1)	185 (15.9)
豊 町	1,407 (100.0)	43 (3.1)	768 (54.6)	— (—)	768 (54.6)	377 (26.8)	4 (0.3)	215 (15.3)
大崎町	2,042 (100.0)	75 (3.7)	773 (37.9)	78 (3.8)	695 (34.0)	599 (29.3)	55 (2.7)	590 (28.9)
東野町	1,264 (100.0)	46 (3.6)	331 (26.2)	3 (0.2)	328 (25.9)	509 (40.3)	36 (2.8)	342 (27.1)
木江町	1,008 (100.0)	44 (4.4)	374 (37.1)	12 (1.2)	362 (35.9)	373 (37.0)	17 (1.7)	200 (19.8)
合 計	33,443 (100.0)	1,100 (3.3)	5,691 (17.0)	1,506 (4.5)	4,185 (12.5)	20,295 (60.7)	797 (2.4)	5,560 (16.6)
県 計	847,306 (100.0)	28,446 (3.4)	76,500 (9.0)	53,800 (6.3)	22,700 (2.7)	621,854 (73.4)	8,088 (1.0)	112,418 (13.3)

- 資料：1 総面積…建設省国土地理院「昭和63年全国都道府県市区町村別面積調」（昭和63年10月1日現在）
 2 宅 地…自治省「昭和63年固定資産の価格等の概要調査報告書」（昭和63年現在）
 3 農 地…中国四国農政局広島統計情報事務所「広島農林水産統計年報」（昭和63年8月1日）
 4 森 林…「広島県林務部行政資料」（平成元年4月）
 5 雑種地…2の宅地と同じ
 6 その他…総面積から、宅地、農地、森林、雑種地を除いたもの

注：（ ）内は構成比

4 人口、世帯数

この図幅内の1市8町の人口は、表-4のとおり、昭和60年10月1日現在88,612人で、55年に比べ2,752人、3.0%減少している。

特に、豊町の△13.3%をはじめとして、島しょ部で全体的に減少傾向にある。

一方、東広島市のベッドタウンとして発展しつつある安浦町では、人口が増加している。

世帯数については、この地域全体で人口が減少しているにもかかわらず、0.9%増加している。

表-4 市町別人口・世帯数

(単位：世帯、人、%)

市 町	昭 和 55 年(A)		昭 和 60 年(B)		増減率 $\left(\frac{B}{A}\right) \times 100$	
	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口
竹 原 市	11,431	36,895	11,601	36,286	1.5	△1.7
蒲 刈 町	1,401	4,356	1,381	4,025	△1.4	△7.6
安芸津町	3,966	13,857	4,074	13,621	2.7	△1.7
安 浦 町	3,492	12,040	3,790	12,691	8.5	5.4
豊 浜 町	1,466	4,017	1,413	3,508	△3.6	△12.7
豊 町	1,702	5,053	1,580	4,380	△7.2	△13.3
大 崎 町	1,795	5,643	1,824	5,422	1.6	△3.9
東 野 町	1,519	4,700	1,458	4,350	△4.0	△7.4
木 江 町	1,719	4,803	1,622	4,329	△5.6	△9.9
合 計	28,491	91,364	28,743	88,612	0.9	△3.0

資料：「国勢調査報告」（昭和55年，昭和60年）

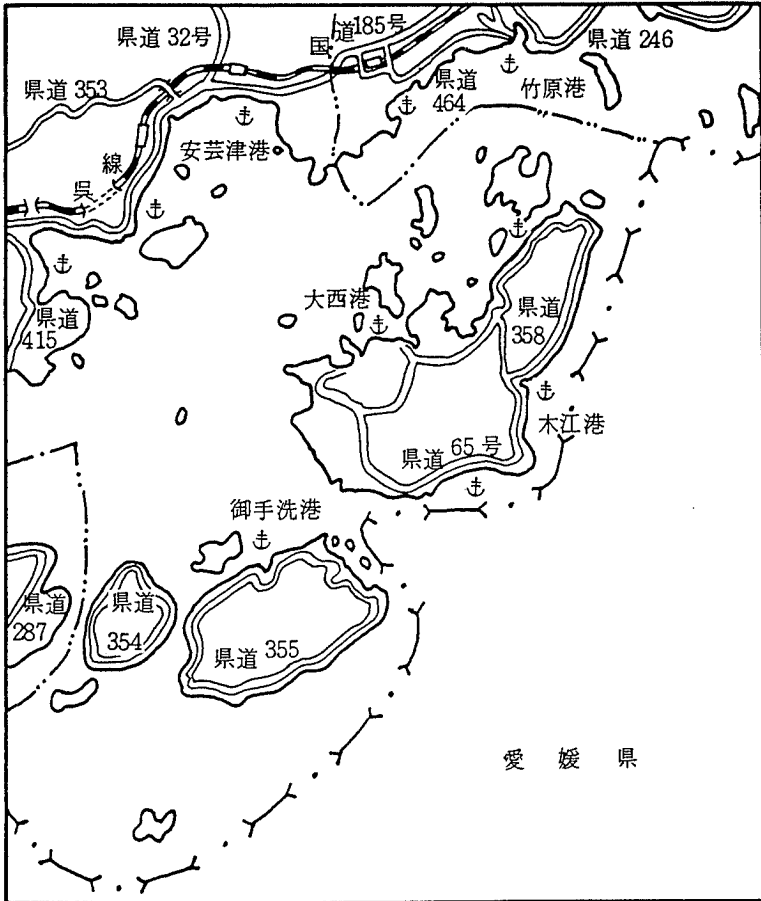
5 交 通

この図幅内の主要交通施設には、鉄道としては、西日本旅客鉄道呉線があり、県本土部の瀬戸内海沿岸を東西に走っている。

道路では、国道185号が西日本旅客鉄道呉線に沿って伸びている。

海上交通では、県管理港湾の竹原港、安芸津港、大西港、木江港及び御手洗港等が、沿岸・島しょ部の輸送拠点となっている。

図一 2 主要交通施設



Ⅲ 主要産業の概要

この図幅内の市町別、産業別就業人口は、表一五のとおりである。総数は、昭和60年10月1日現在44,037人で、産業別にみると、第1次産業は9,880人、22.4%、第2次産業は14,719人、33.4%、第3次産業は19,371人、44.0%となっている。

豊浜町及び豊町等の島しょ部を中心として第1次産業の割合は県全体の割合を大きく上回っている。

表一五 産業別就業人口

(単位：人、%)

市 町	総 数	第 1 次 産 業		第 2 次 産 業		第 3 次 産 業	
		うち 農 業		うち 製 造 業		うち卸売 小売業等	
竹原町	17,648	2,220 (12.6)	2,009	6,302 (35.7)	4,818	9,087 (51.5)	3,263
蒲刈町	1,979	762 (38.5)	698	495 (25.0)	297	722 (36.5)	199
安芸津町	7,127	1,468 (20.6)	1,224	2,628 (36.9)	2,158	3,009 (42.2)	1,186
安浦町	6,047	873 (14.4)	765	2,653 (43.9)	2,189	2,519 (41.7)	857
豊浜町	2,024	1,395 (68.9)	647	244 (12.1)	105	385 (19.0)	117
豊 町	2,583	1,576 (61.0)	1,513	352 (13.6)	188	654 (25.3)	240
大崎町	2,788	899 (32.2)	845	656 (23.5)	366	1,232 (44.2)	366
東野町	1,770	282 (15.9)	245	683 (38.6)	504	803 (45.4)	210
木江町	2,071	405 (19.6)	350	706 (34.1)	559	960 (46.4)	305
合 計	44,037	9,880 (22.4)	8,296	14,719 (33.4)	11,184	19,371 (44.0)	6,743
県 計	1,363,685	115,984 (8.5)	106,367	464,721 (34.1)	336,564	780,109 (57.2)	313,589

資料：「国勢調査報告」（昭和60年）

注：（ ）内は構成比

総数には、分類不能の産業を含む

1 農 業

この図幅内の市町の総農家数は、表-6のとおり8,241戸である。

豊町や木江町などの島しょ部では、県全体に比較して専業農家の割合が約20%以上も高く、第2種兼業農家の割合は20%以上低くなっている。これに対して本土部の竹原市などでは、概ね県全体と同様の傾向を示している。

また、農業粗生産額については、島しょ部の構成比をみると、米、野菜及び畜産の割合が県全体の割合より低く、みかんとした果実の割合が県全体の割合を大きく上回っている。

表-6 専業別農家数

(単位：戸)

市 町	総 農 家 数	専 業 農 家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
竹 原 市	2,178 (100.0)	453 (20.8)	181 (8.3)	1,544 (70.9)
蒲 刈 町	803 (100.0)	299 (37.2)	66 (8.2)	438 (54.5)
安芸津町	1,203 (100.0)	181 (15.0)	106 (8.8)	916 (76.1)
安 浦 町	995 (100.0)	172 (17.3)	67 (6.7)	756 (76.0)
豊 浜 町	474 (100.0)	170 (35.9)	95 (20.0)	209 (44.1)
豊 町	989 (100.0)	414 (41.9)	232 (23.5)	343 (34.7)
大 崎 町	787 (100.0)	289 (36.7)	75 (9.5)	423 (53.7)
東 野 町	436 (100.0)	175 (40.1)	21 (4.8)	240 (55.0)
木 江 町	376 (100.0)	157 (41.8)	26 (6.9)	193 (51.3)
合 計	8,241 (100.0)	2,140 (26.0)	869 (10.5)	5,062 (61.4)
県 計	123,021 (100.0)	20,405 (16.6)	10,019 (8.1)	92,597 (75.3)

資料：農林水産省「1985年農業センサス」

(注)：()内は構成比

表一 7 農業粗生産額（昭和63年）

（単位：100万円，％）

市 町	農 業 粗生産額	う ち 米	う ち 野 菜	う ち 果 実	う ち 畜 産
竹 原 市	1,837 (100.0)	609 (33.2)	252 (13.7)	139 (7.6)	387 (21.1)
蒲 刈 町	558 (100.0)	5 (0.9)	51 (9.1)	409 (73.3)	0 (0.0)
安芸津町	1,266 (100.0)	287 (22.7)	98 (7.7)	235 (18.6)	96 (7.6)
安 浦 町	661 (100.0)	385 (58.2)	104 (15.7)	45 (6.8)	64 (9.7)
豊 浜 町	691 (100.0)	—	10 (1.4)	584 (84.5)	5 (0.7)
豊 町	1,322 (100.0)	—	8 (0.6)	1,087 (82.2)	10 (0.8)
大 崎 町	1,059 (100.0)	63 (5.9)	75 (7.1)	786 (74.2)	24 (2.3)
東 野 町	408 (100.0)	1 (0.2)	18 (4.4)	335 (82.1)	—
木 江 町	501 (100.0)	11 (2.2)	15 (3.0)	425 (84.8)	—
合 計	8,303 (100.0)	1,361 (16.4)	631 (7.6)	4,045 (48.7)	586 (7.1)
県 計	137,364 (100.0)	53,223 (38.7)	17,939 (13.1)	13,309 (9.7)	40,799 (29.7)

資料：中国四国農政局広島統計情報事務所

「広島農林水産統計年報」（昭和63～平成元年）

注：（ ）内は構成比

2 林 業

この図幅内の市町の森林は、全体的に天然林が多く、図幅の北部の県本土部では、アカマツを主体とした天然林が多く、島しょ部では広葉樹天然林が広く分布している。

人工林率は、図幅内市町の平均は 12.5 % で、県平均の 26.5 % に比べ低水準にある。

森林の所有形態については、竹原市、安芸津町及び安浦町の本土部では、国有林が 8.4 % 程度であるが、島しょ部では、すべてが民有林となっている。

表－8 森林面積等（平成元年 4 月 1 日現在）

（単位：ha, 1,000 m², %）

市 町	民有林 面積	蓄積量	人工林 面積	人工林率	国有林 面積
竹原市	7,772	489	903	11.6	392
蒲刈町	931	55	15	1.6	—
安芸津町	4,507	288	1,001	22.2	52
安浦町	3,379	258	292	8.6	867
豊浜町	537	38	38	7.1	—
豊 町	377	19	20	5.3	—
大崎町	599	33	58	9.7	—
東野町	509	32	16	3.1	—
木江町	373	23	27	7.2	—
合 計	18,984	1,235	2,370	12.5	1,311

資料：「広島県林務部行政資料」（平成元年 4 月）

3 水産業

この地域の漁業経営体を組織別にみると、個人経営体が全体の99.7%を占めており、残り0.3%は会社等の団体経営体となっている。

経営体階層別にみると、漁船使用の海面漁業が92.0%、海面養殖が7.9%となっている。

表 - 9 漁業経営体数

市 町	総 数	経営組織図		経営体階層別					
		個人	団体	漁 船 非使用	漁 船 使 用	定置網 地びき網	海 面 養 殖		
							の り	か き	その他
竹原町	92	92	-	-	91	1	-	-	-
蒲刈町	135	135	-	-	134	-	-	-	1
安芸津町	89	89	-	-	54	-	1	33	1
安浦町	51	50	1	-	22	-	-	26	3
豊浜町	406	406	-	-	406	-	-	-	-
豊 町	45	45	-	-	45	-	-	-	-
大崎町	31	30	1	-	26	-	2	-	3
東野町	12	11	1	-	10	-	-	-	2
木江町	42	42	-	-	42	-	-	-	-
計	903 (100.0)	900 (99.7)	3 (0.3)	-	830 (91.9)	1 (0.1)	3 (0.3)	59 (6.5)	10 (1.1)

資料：中国四国農政局広島統計情報事務所

「広島農林水産統計年報」（昭和63～平成元年）

広島県企画振興部情報統計課

「第8次漁業センサス結果速報」（昭和63年）

注：（ ）内は構成比

4 商工業

この図幅内の市町の商業の概要をみると、昭和63年6月1日現在で商店数1,781, 従業者数5,825人であり、年間商品販売額(昭和62年6月1日から昭和63年5月31日まで)は945億円で、竹原市、安芸津町及び安浦町の本土部で年間商品販売額の82.8%を占めている。

工業についてみると、昭和62年12月末現在で事業所数265, 従業者数6,227人であり、製造品出荷額(昭和62年1月1日から同年12月31日まで)は1,600億円で、同じく本土部で製造品出荷額の83%を占めている。

表-10 商工業の概要

(単位:人, 100万円)

市 町	商 業 (昭和63年)			工 業 (昭和62年)		
	商店数	従業者数	年間商品 販 売 額	事業所数	従業者数	製 造 品 出 荷 額 等
竹 原 市	751 (42.2)	2,894 (49.7)	58,321 (61.7)	97 (36.6)	3,019 (48.5)	91,359 (57.1)
蒲 刈 町	82 (4.6)	167 (2.9)	1,681 (1.8)	4 (1.5)	28 (0.4)	153 (0.1)
安芸津町	252 (14.1)	879 (15.1)	12,681 (13.4)	45 (17.0)	1,007 (16.2)	24,761 (15.5)
安 浦 町	193 (10.8)	539 (9.3)	7,231 (7.7)	66 (24.9)	1,251 (20.1)	16,704 (10.4)
豊 浜 町	63 (3.5)	112 (1.9)	654 (0.7)	3 (1.1)	16 (0.3)	274 (0.2)
豊 町	107 (6.0)	317 (5.4)	3,320 (3.5)	6 (2.3)	85 (1.4)	841 (0.5)
大 崎 町	137 (7.7)	396 (6.8)	4,905 (5.2)	10 (3.8)	192 (3.1)	3,060 (1.9)
東 野 町	75 (4.2)	217 (3.7)	1,810 (1.9)	21 (7.9)	431 (6.9)	18,783 (11.7)
木 江 町	121 (6.8)	304 (5.2)	3,904 (4.1)	13 (4.9)	198 (3.2)	4,025 (2.5)
計	1,781 (100.0)	5,825 (100.0)	94,507 (100.0)	265 (100.0)	6,227 (100.0)	159,960 (100.0)
県 計	50,624	274,382	12,336,282	9,091	264,678	6,787,573

資料: 広島県企画振興部情報統計課 「昭和63年商業統計調査結果報告」

〃 「昭和62年工業統計調査結果報告」

- (注): 1 商業は、卸売業・小売業
 2 工業は、従業者4人以上の事業所
 3 ()内は構成比

IV 開発の現況と方向

瀬戸内海の中央に位置する本地域は、西日本旅客鉄道呉線が通っており、地域の大量輸送機関としての役割を果たしているほか、国道185号が東西に走っている。また、本地域は海上交通が非常に発達し、沿岸部と島しょ部さらには四国沿岸都市等と緊密な航路が確保されている。

今後、山陽自動車道等の高速交通体系の整備、平成5年の開港を目指す新広島空港の建設及びこれらに接続する道路、航路、鉄道等地域交通網の整備が進むとともに、安芸灘諸島連絡架橋の整備クルージングネットワークの形成が具体化に向けて動き始めるなどアクセシビリティに優れた地域である。

さらに、恵まれた自然景観、温暖少雨の気候、静穏な海象、豊富な海と島の幸、魅力ある歴史的・文化的遺産等リゾート地として優れたポテンシャルを有した地域でもある。

こうしたことに加え、本地域やその周辺を舞台として、平成元年度には海と島の博覧会が開催され、また、平成6年には第12回アジア大会が開催されることとなっており、海洋・沿岸域の積極的活用という社会的要請とも相まって、「新瀬戸内海時代」の到来を展望した民間資本によるリゾート開発の動向が一層高まってくるものと考えられる。

竹原地区におけるシーサイドリゾート基地づくりや、安芸灘諸島東部地区における地域の特性を活かしたスポーツ・レクリエーション施設、体験学習施設等民間事業者による多様なリゾート施設整備が計画されており、本地域はリゾート地として特定民間施設の整備が確実に進展するものと見込まれる。

したがって、この地域の今後の土地利用にあたっては、優れた自然環境と開発の調和に留意するとともに、安全性・快適性・健康性等、県土利用の質的向上に配慮して進める必要がある。

各 論

I 地形分類図

1 地形の概要

広島県中南部に位置する本地域は、賀茂台地の南縁にあたる広島県本土部と芸予諸島の大崎上島・大崎下島・豊島をはじめとする島しょ部から構成される。

図幅北西部を占める広島県本土部は、北隣の「竹原」図幅から連続する洞山山地・蚊無奥山山地（標高 400～540 m）等の南縁地域、小規模な半島をなす山地・丘陵地、および河川の河口部を中心に小規模に発達する瀬戸内海沿岸低地からなる。山地は大部分が流紋岩からなる中起伏山地であり、安芸津・安浦町境の高野川流域（茂助山山地）では、急峻な谷を穿っている。しかし、隣接図幅から連続している関係上、洞山山地をはじめ、中起伏山地の割には起伏量が小さく、山地内の谷底平野が発達している地域も多い。侵食小起伏面についてみると、吉備高原面・世羅台地面に対比される面は「竹原」・「呉」等の周辺図幅では比較的良好に発達しているものの、本図幅においては、安芸津町風早西方、灘山山地の標高 350 m および標高 250 m 付近に小規模な山頂緩斜面がみられるのみである。これらは侵食小起伏面の分布の中心から離れており、面の保存も悪く、分布も限られているため、他地域との明確な対比は困難である。また、安芸津町木谷・赤崎、竹原市吉名付近（赤崎丘陵地）には、標高 100 m 前後の丘陵地があり、大崎上島の原田丘陵地や後述の山麓緩斜面とともに、瀬戸内面に対比できると考えられる。崩壊地は北東部の茂助山山地・蚊無奥山山地の急峻な斜面に集中している。また、灘山山地の山頂緩斜面の周辺部でも若干の崩壊が発生している。灘山山地の東麓・蚊無奥山山地南麓では、山麓緩斜面がみられる。風早付近の山麓緩斜面には、新第三紀中新世の塩町層とされる礫岩・砂岩・泥岩層が分布している。山麓緩斜面は島しょ部にも多く分布しているが、本土側の山麓緩斜面は島しょ部に比べて開析が著しく進んで丘陵化しており、その形成年代は相当古いものと考えられる。

本図幅内の瀬戸内海沿岸低地は、竹原市街地の南方にある賀茂川河口部の干拓地をはじめ、中小河川による小規模な谷底平野・三角州、およびその海側の干拓地・埋立地からなる。小規模な海岸の湾入部においても、干拓や埋め立ての手が加わっており、自然の海岸線は半島部などで、ごく僅かに認められるにすぎない。

島しょ部の地形については、まず、大崎下島・豊島・上蒲刈島に共通した

特徴が見い出せる。これらの地域は、地質条件からみると、古生層・流紋岩・花崗岩と様々であるが、300～450 m程度の比較的急峻な中起伏山地とごく僅かの平野部からなり、谷底平野の発達の様式など地形的パターンが単純である。また山麓部には、形成時期が新しいと考えられる開析の進んでいない平滑な山麓緩斜面を持つことが多い。

これに対して、大崎上島、特にその北岸では、前述の島しょ地域とは違った特徴を示している。北東に延びる半島部では、東側が急斜面、西側には緩やかな斜面を持つ、非対称山稜の小起伏山地、中央部は低地および丘陵地となっている。山地および丘陵地内の谷底平野も複雑に発達しており、地形的パターンが複雑である。また、原田丘陵地内にみられる幅の広い谷底平野は、他地域にみられるものとはやや異なり、侵食面的要素が強く、山麓緩斜面に近い形態であると考えられる。断面図(A-B)からも容易に読みとれるように、大崎上島は北部と南部が明瞭な傾斜変換線で区分され、南部は標高452.6 mの神峰山をはじめとする比較的急峻な中起伏山地となっている。この神峰山山地は前述の大崎下島・豊島・上蒲刈島の島しょ部と大崎上島北部地域との中間的形態となっている。

島しょ部の平野についてみると、大崎下島・豊島・上蒲刈島および大崎上島南部では、谷が海に面するところに小規模に発達するのみで、その面積は小さい。干拓地・埋立地も存在するが、その規模は小さい。これに対して、大崎上島北岸では、干潟や遠浅の海岸の存在から、大規模に干拓が行われ、平野が拡大されている。また、海岸線を細長く取り巻く埋立地は、平地に乏しい島しょ部ならではの特徴である。

人工改変地形について説明を加えると、本図幅の地域が都市からの距離がやや離れているために、山地や丘陵地を大規模に改変するような住宅団地や工業団地は認められず、地形分類図に示したものの多くは採石場である。しかし、この地域はリゾート開発に関連して、注目を集めており、図幅西部に位置する安浦町のグリーンピア安浦はその先駆けであるが、自然の地形を活かしながらも、やはり開発に伴う地形改変は避けられない。

2 各地形区の特徴

I 山地

I a 茂助山山地

図幅北西部の流紋岩からなる中起伏山地。標高410.8 m、346.1 mのピークを持つ。この山地東部の南北に連なる尾根の西側斜面には崩壊地が集中している。山地東麓の谷底平野と接する部分では、小規模な沖積

雉が発達する。

I b b' 蚊無奥山山地・同山麓地

図幅北西部に位置する流紋岩からなる山地。中起伏山地ではあるが、東部は傾斜も緩やかで、山地内に谷底平野も多く発達する。山地西部の標高約 300 m の山頂付近は緩傾斜になっており、丸みを持った尾根となっている。山地西部には崩壊地が認められる。南麓には、開析の進んだ山麓緩斜面があり、ここに中新世の塩町層が分布する。

I c 洞山山地

北隣の「竹原」図幅の洞山（544.6 m）を中心とした中起伏山地。主として流紋岩からなる。山地の南端部にあたり、起伏は緩やかで、山地内に樹枝状の谷底平野がよく発達している。南東部では開析の進んだ山麓緩斜面がわずかにみられる。

I d 平家山山地

山地の本体は「竹原」図幅にあり、本図幅では北縁の竹原港東側と忠海付近にわずかに分布する中起伏山地。

I e 頓原山地

図幅北西部三津口谷付近の流紋岩からなる中起伏山地。西隣の「呉」図幅に連続する。

I f f' 灘山山地・同山麓地

図幅北西部、三津口北東方、風早西方に位置し、流紋岩からなる中起伏山地。灘山（296.4 m）および西部に 386.7 m のピークを持つ。西部の標高 350 m 付近および灘山山頂北西方の標高 250 m 付近に小規模な山頂緩斜面がみられる。西部の山頂緩斜面の周辺に崩壊地が分布する。山地の東麓には開析が進み、やや傾斜の急な山麓緩斜面がある。

I g 安浦南山地

図幅西部の安浦町市街地南側の 369.1 m のピーク（「呉」図幅）を中心とする中起伏山地。山地北西部は流紋岩からなるが、本図幅に含まれる地域は花崗岩からなる。1986 年には山火事により 85 ha が焼失し、植生の回復が待たれる。

I h 安登山地

図幅西部、安浦南山地の南東側の小起伏山地。グリーンピア安浦が立地している所である。日之浦低地との境界部には、小規模な山麓緩斜面がある。安浦南山地同様、山火事の起こり易い地域である。また、海岸線に沿っては、大きな採石跡地がある。

I i 生野島山地

大崎上島北部垂水の北西沖に浮かぶ生野島を構成する小起伏山地で、流紋岩からなる。山地は二ツ頭（159.2 m）と136 mのピークをそれぞれの中心とする東部・西部の2地域に分けられる。両地域とも尾根の主軸は北北東—南南西方向に伸び、大崎上島北東部の半島と山地の配列の方向が揃っている。

I j 高辻山山地

大崎上島北東部の半島を構成する小起伏山地。南部に高辻山（205.0 m）、北部には245.3 mのピークがある。主として、流紋岩からなるが、南東部には石灰岩や粘板岩などの古生層が分布する。高辻山直下や岩白には石灰岩の採石場がある。この山地の主稜は北北東—南南西方向に走っているが、その位置は東側に偏っている。山地東側は比較的急な斜面、西側は緩傾斜の丘陵状の地形を呈し、非対称山稜をなしている。山地内部の谷底平野もよく発達している。

I k 神峰山山地

大崎上島南部の神峰山（452.6 m）、大畠山（330.9 m）を中心とする中起伏山地。主として流紋岩からなるが、南東部に古生層、北部と南部に花崗岩も分布する。北側の高辻山山地、原田丘陵地および大串低地とは、東西に走る明瞭な傾斜変換線で区分される。また同山地内でもオノ峠以西では、東部に比べて、起伏量が小さくなり、谷密度が高くなるという明瞭な差異が認められる。これは、地質条件・風化度の差異を端的に表していると考えられる。また、山地南麓には、山麓緩斜面も発達している。

I l l' 上蒲刈島山地・同山麓地

西隣の「呉」図幅から、本図幅南西部にかけての上蒲刈島を構成する中起伏山地。本図幅内では、中央の谷を境に南部、北部に分けられるが、

北部は流紋岩，南部は花崗岩からなる。周囲の山麓部には，山麓緩斜面がよく発達している。

I mm' 豊島山地・同山麓地

図幅南西部の豊島を構成する標高約 300 m の中起伏山地で，流紋岩・花崗岩・古生層からなる。北西および北東側の山麓には，形成時期が新しいと考えられる開析の進んでいない山麓緩斜面が発達している。南部にも小規模な山麓緩斜面がみられる。この島内における平地は極めて小規模な山麓緩斜面がみられる。この島内における平地は極めて小規模である。

I nn' 大崎下島山地・同山麓地

図幅南部に位置し，標高 449.3 m のピークを中心として大崎下島を構成する中起伏山地で，流紋岩・古生層・花崗岩からなる。北西側には山麓緩斜面も発達している。山地内に形成されている谷底平野は，谷幅はあるものの，山地中央部から北に抜ける谷を除いては，いずれも長さが短く，海岸線に沿う平地は非常に少ない。また，地形の配列パターンも単調である。

II 丘陵地

II a 赤崎丘陵地

図幅北部中央の広島県本土側から瀬戸内海に突き出した丸い半島部をなし，安芸津町木谷・赤崎から竹原市吉名町にまたがる。最高地点は 138.1 m で緩やかな起伏を持った丘陵地である。侵食小起伏面の瀬戸内面に対比されると考えられる。

II b 掛浦丘陵地

吉名低地を隔てて，赤崎丘陵地の東側に位置する。最高地点は 73.0 m で，赤崎丘陵地と同様な起源であろう。

II c 阿波島丘陵地

竹原市大乘沖の阿波島（最高地点 99 m）を構成する丘陵地。

II d 大久野島丘陵地

竹原市忠海沖の国民休暇村のある大久野島（最高地点 95 m）を構成す

る丘陵地。

II e 大芝島丘陵地

安芸津町小松原沖の大芝島（最高地点 101.4 m）を構成する丘陵地。
細長い谷底平野が丘陵地内に発達している。

II f 長島丘陵地

大崎上島大崎町北西沖の長島（最高地点 74.5 m）を構成する丘陵地。

II g 臼島丘陵地

竹原市吉名町と大崎上島の間位置する臼島（最高地点 69.0 m）を構成する丘陵地。

II h 本山丘陵地

大崎上島大崎町中野の北方の丘陵地。東西方向の谷によって、南部・北部の2地域に分けられるが、北部は最高地点 121.0 m で、比較的起伏があるものの、南部は 60 m 程度で大変緩やかな丘陵地となっている。

II i 原田丘陵地

大崎上島大崎町原田付近の大串低地、中野低地および神峰山山地に囲まれた、標高 100 m 前後（最高地点 122 m）の定高性のある丘陵地。対岸の赤崎丘陵地と同様、瀬戸内面に対比されると考えられる。丘陵地内部には樹枝状の谷底平野が発達しており、特に西部では谷幅が広く、緩やかに傾斜することから、侵食面的要素の強い、谷底平野と山麓緩斜面の中間的形態であると考えられる。

II j 三角島丘陵地

大崎下島北西沖の三角島（最高地点 110.4 m）を構成する丘陵地。

II k 尾久比島丘陵地

豊島南西沖の尾久比島（最高地点 99 m）を構成する丘陵地。

II l 齋島丘陵地

豊島南沖の齋島（最高地点 89.3 m）を構成する丘陵地。他の島しょと比較して、広いフェッチを持つこの島の西海岸および南海岸は、海食崖

がよく発達している。

IV 低地

IV a 三津低地

安芸津町の三津大川および高野川の河口付近に発達する沖積低地。安芸津町の中心地三津がここに立地する。三津大川の谷底平野には、左岸側に旧河道や自然堤防が小規模ながら発達している。また、谷底平野と山地との境界部に小さな沖積錐もみられる。海側に向かっては、干拓地・埋立地が広がっている。

IV b 吉名低地

赤崎丘陵地と掛浦丘陵地の間にある、竹原市吉名町の沖積低地および干拓地で、その面積は大変狭い。かつては、深い湾入部であったと思われる。

IV c 竹原低地

図幅北部の賀茂川河口部に発達する低地。竹原市街地がここに含まれるが、その中心部は北隣の「竹原」図幅にあり、この図幅内に分布するのは市街地南側に広がる干拓地・埋立地である。

IV d 大乘低地

図幅北部の「竹原」図幅との境界部、竹原市大乘にみられる低地。そのほとんどが干拓地・埋立地である。ここに竹原火力発電所が立地する。

IV e 忠海低地

図幅北東端の竹原市忠海の低地。「竹原」図幅との境界部にあたり、大乘低地同様、そのほとんどが干拓地・埋立地である。

IV f 安浦低地

図幅西端の安浦町野呂川河口部に発達する沖積平野。安浦の中心部がここに立地するが、本図幅に含まれるのは、市街地東方の干拓地のみである。

IV g 日之浦低地

図幅西部の安浦南山地と安登山地との湾入部に発達する低地。谷底

平野の海側が干拓されている。

IV h 大串低地

大崎上島の西部大崎町大串沖の七々見集落のある島と外浜海岸の砂州を利用して造成された大規模な干拓地。現在のところ、農地としては十分な利用がなされておらず、リゾート開発が計画されている。

IV i 中野低地

大崎上島大崎町の中心地中野の立地する低地。神峰山山地や高辻山山地から流下する小河川によって形成された沖積低地、および、かつて島であった本山丘陵地と大崎上島の間を干拓することによって形成された低地であり、両者の間には明確な境界線を引くことは甚だ困難である。

広島大学 文学部	藤原 健蔵
同 上	牧野 一成
広島大学総合科学部	堀 信行

参 考 文 献

木野崎吉郎ほか（1963）：広島県地質図，広島県。

藤原健蔵・成瀬敏郎（1977）：自然の基礎。『広島県史—地誌編—』，広島県



写真 1

大崎上島北東部の高辻山山地。東（右）側が急斜面，西側は緩やかな起伏の丘陵状地形をなす非対称山稜となっている。手前は木江町の中心部。



写真 2

緩やかな波浪状地形をなす赤崎丘陵地（安芸津町赤崎）。左奥は洞山山地。



写真 3

大崎上島神峰山から北西方向の展望。中央の平野は大崎町の中野低地で半島部が本山丘陵地。橋で接続されている長島，右手には白島などの島しよや対岸の安芸津町方面が遠望できる。



写真 4

大崎上島北西部の花崗岩の岩石海岸に発達する波食棚

II 表層地質図

1 表層地質の概要

未固結堆積物：三津・今治西部図幅の中で沖積層が分布する所は、三津口湾に注ぐ野呂川、三津湾に注ぐ三津大川・高野川の流域と河口部分、竹原市の賀茂川の流域と河口部分に、大崎上島や大崎下島・豊島・上浦刈島では中小河川の河口部にみられる。他に瀬戸内海に面する地域では埋め立てによる造成が進んでいる。

崖錐堆積物は上浦刈島の高田西方の狭い範囲に見られる。

洪積層は図幅の北東部の狭い範囲に“西条湖成層”又は“西条砂礫層”総称される礫・砂・シルト・粘土からなる堆積物が分布する。

半固結堆積物：砂岩・泥岩・凝灰岩から成る堆積物が安芸津町風早周辺に分布する。

固結堆積物・固結堆積物は豊島・大崎上島・大崎下島と竹原市の瀬戸内海に面した狭い地域に熱変質を受けてホルンフェルス化した泥質岩と石灰岩・チャートが分布する。これらの堆積岩類は従来“南帯古生層”に含まれていた物であるが、この西部延長と考えられる玖珂層群より中生代ジュラ紀型放射虫の化石が発見された事により、本図幅の地域の相当層にも同時代の堆積岩類が含まれている物と考えられる。本図幅の地域の堆積岩類からは化石は検出されていない。

火山性岩石：本図幅の範囲では“高田流紋岩類”と総称される岩石が安芸津町周辺と竹原市の西部地域及び上浦刈島・豊島・大崎上島・大崎下島に広く分布する。“高田流紋岩類”には流紋岩質～デイサイト質のガラス質溶結凝灰岩や安山岩質溶結凝灰岩、一部に凝灰質頁岩・礫岩がある。楠見他(1988)は安芸津町小松原と大芝島の泥質岩からカイエビ類の化石を報告し、それによりこの地域の“高田流紋岩類”の中に白亜紀中～後期の堆積物がある事が明らかになった。

深成岩類：花崗斑岩・広島型花崗岩と領家型花崗岩・石英閃緑岩が分布する。花崗斑岩は安芸津町向組から南東方向に連なる岩脈である。広島型花崗岩に含まれる物は、安浦町の三津口湾以南・竹原市周辺・大崎上島の西部地域・大崎下島の南部地域・豊島・上浦刈島に、領家型花崗岩に含まれる物は豊浜町の斎島に分布する。石英閃緑岩は上浦刈島の大浦と豊島の山崎周辺に見られる。

2 表層地質の細説

I 未固結堆積物

I a 砂・粘土・礫 (scg) (沖積層)

沖積層は三津口湾に注ぐ野呂川，三津湾に注ぐ三津大川・高野川の流域と河口部分，竹原市の賀茂川の流域と河口部分に，他に大崎上島や大崎下島・豊島・上蒲刈島では中小河川の河口部にみられる。ボーリング資料によると沖積堆積物は地域により異なり，三津口湾に注ぐ野呂川河口では玉石混じりシルト質砂礫・砂質シルト・シルト質砂等からなり，層厚は23mをこえる。三津湾に注ぐ高野川河口に位置する安芸津町西条では風化花崗岩の上に砂・砂礫・粘土からなる堆積物があり層厚は10mをこえる。また三津大川の河口周辺では風化花崗岩の基盤の上に玉石混じりシルト質砂礫・玉石混じり砂礫・砂・砂質粘土・砂質シルトからなる堆積物があり，最大層厚は14mである。島しょ部の上蒲刈島大浦では砂礫・シルト質砂・粘土質シルト・シルトからなる堆積物があり，堆積物の最大層厚は9mを越える。内陸の河川流域に分布する沖積堆積物は最大層厚10m前後と推定される。

I b 碎屑物 (ci) (崖錐性堆積物)

碎屑物に分類される堆積物は崖錐性堆積物と地すべりによる堆積物をまとめた。後背山地を形作る岩石の岩塊が細粒の岩屑を含む堆積物の中に不規則に含まれる物である。本図幅の範囲では上蒲刈島の高田西方の狭い範囲に見られる。

I c 礫・砂・シルト・粘土 (gsc) (洪積層)

本図幅の範囲には，図幅の北東部・女子畑周辺の狭い範囲に“西条湖成層”又は“西条砂礫層”総称される礫・砂・シルト・粘土からなる堆積物が分布する。

II 半固結堆積物

II a 砂岩・泥岩・凝灰岩 (sg) (塩町層)

安芸津町東・西条周辺に砂岩・泥岩・凝灰岩から成る堆積物が分布し，この堆積物は従来備北層群の下位にある塩町層に対比されている。

III 固結堆積物

III a 泥質岩 (md) (兩帯古生層)

本図幅において泥質岩とした物は，大崎上島の木江町木江周辺と木江町

上ノ谷周辺，や大崎下島豊町の立花～大浜より東に沖友の北方にかけての流域，豊島では豊浜町の内浦南方の地域，竹原市市場・同皆実町周辺に分布する。木江町木江周辺や木江町上谷周辺の泥質岩とした物は石灰岩とチャートを伴う珪質泥岩，竹原市市場・同皆実町周辺に分布する泥質岩も珪質泥岩で，大崎下島豊町の立花～大浜より東に沖友の北方にかけて分布する泥質岩は石灰岩や砂岩の薄層をはさむ。大崎上島・大崎下島と豊島の泥質岩の層向は略N 50°～75°Wで傾斜は50°～60°NEである。大崎下島地域の“南帯古生層”は緑色岩類を含まない。“南帯古生層”とされる堆積物は従来古生層と考えられてきた（長谷 1964）ものであるが，その西部延長と考えられる山口県の玖珂層群より中生代ジュラ紀型放散虫の化石が発見された（早坂他 1983）事により，本図幅の地域の相当層にも同時代の堆積岩類が含まれている可能性が考えられる。しかし本図幅の地域内の堆積岩類による熱変質によってホルンフェルスになっており，堆積岩類の時代を決める上で有効な化石は検出されていない。

IV 火山性岩石

IVa 流紋岩質岩石（Ry）

本図幅の範囲では流紋岩質岩石に区分される岩石種が最も広い面積を占める。安芸津町の西部地域と東部の三津・木谷周辺，竹原市の吉名町周辺に分布し，島しょ部では安芸津町の大芝島，大崎上島の略中央を北東～南西に連なる山地部分と生野島，大崎下島では略立花と御手洗を結ぶ線より北の地域，豊島では略浦より北西に伸ばした線の北側，上蒲刈島では大浦の西部に分布する。流紋岩質岩石に含めた岩石は従来“高田流紋岩類”に一括されているもので，本図幅の範囲に見られる岩石種は“南帯古生層”とされる堆積物の上に接する礫層（礫種は粘板岩・砂岩・チャート・流紋岩・質凝灰岩等からなる。亜角礫～亜円礫），流紋岩質～デイサイト質のガラス質溶結凝灰岩や安山岩質溶結凝灰岩からなり一部に凝灰質頁岩・砂岩を含む。楠見他（1989）は本図幅中の安芸津町小松原と大芝島の“高田流紋岩”に含まれる泥質岩から白亜紀中～後期のカイエビ類の化石を報告し，この地域の“高田流紋岩類”の中にこうした時代の堆積物が有る事を明らかにした。“高田流紋岩類”の年代は従来上部白亜系ギリヤーク統～浦川統とされている物である（木野崎他 1964）。

V 深成岩

V a 花崗斑岩質岩石 (Gp)

本地域に分布する花崗斑岩質岩石は、安芸津町向組から南東に竹原市下野町掛浦に至る花崗斑岩質岩脈である。

V b 花崗岩質岩石 (Gr, RGr)

花崗岩質岩石には広島型花崗岩 (Gr) と領家型巻崗岩 (RGr) がある。前者広島型花崗岩 (Gr) は本図幅では安浦町の野呂川より南側の地域、竹原市の下野町周辺、大崎上島の中野・大串・明石と長島・来島等の地域、大崎下島の大浜と沖友を結ぶ線より南側の地域及び大崎下島の北に位置する角島と平羅島・中ノ島、豊島では内浦より略北西に伸ばした線より南側と尾久比島に分布する。上浦刈島では浦刈町大浦の南東地域に分布する。本地域の広島型花崗岩は構成する鉱物粒が比較的粗粒な花崗岩と細粒な花崗岩が見られる。これらの広島型花崗岩はその上位に分布する“南帯古生層”と“高田流紋岩類”に熱変成を与えている。

領家型花崗岩 (RGr) は豊島の南に位置する豊浜町の齋島に分布し、黒雲母片麻岩・粗粒斑状花崗岩がみられる。

V c 閃緑岩質岩石 (Dr)

閃緑岩質岩石は、上浦刈島では浦刈町大浦の殿河内周辺と中谷の北東地域に、豊島では豊浜町山崎から西に帯状に分布する。

VI 斜面崩落等地質に関連する災害

三津・今治西部図幅中に含まれる1市8町では県指定の急傾斜崩壊危険区域は広島県土地利用総合規制図（広島県監修 昭和63年版）によると104カ所あり、指定地と表層地質との関連は次のとおりである。

安芸津町	13地点（流紋岩質岩分布域）
安浦町	指定地なし
竹原市	11地点（流紋岩質岩分布域 8地点、花崗岩質岩分布域 3地点）
東野町	19地点（流紋岩質岩分布域 19地点）
大崎町	14地点（流紋岩質岩分布域 1地点、花崗岩質岩分布域 13地点）
木江町	20地点（流紋岩質岩分布域 4地点、花崗岩質岩分布域 7地点、“南帯古生層”分布域 9地点）

- 豊 町 9地点（流紋岩質岩分布域 7地点，“南帯古生層”分布域 2地点）
- 豊浜町 17地点（流紋岩質岩分布域 9地点，花崗岩質岩分布域 2地点，“南帯古生層”分布域 2地点，閃緑岩質岩石分布域 2地点）
- 蒲刈町 1地点（閃緑岩質岩石分布域）

本図幅中に分布する岩種別にまとめると，流紋岩質岩分布域61地点，花崗岩質岩分布域25地点，“南帯古生層”分布域15地点，閃緑岩質岩石分布域3地点である。流紋岩質岩が広く分布する東野町では海岸に面した地域に急傾斜崩壊危険区域が多く，花崗岩質岩の分布域が多い大崎町では市街地周辺に集中している。また異なった岩石種が接する部分に崩壊しやすい要因が考えられる。

VII 応用地質

VII a 鉱 床

本図幅中には現在稼業中の金属・非金属鉱山はない。採石業では木江町岩白において熱変質泥質岩・石灰岩等を採掘していたが現在は稼業していない。

VII b 温泉及び鉱泉

本図幅中には温泉及び鉱泉はない。

謝辞：本図幅の調査に際して当該市町村当局より種々便宜をおはかり頂いた。ボーリング資料は日本建築学会が取り纏めた物を使用させて頂いた。地質図については広島県地質図（1963）作製における5万分の1原図（広島県企画振興部企画調整課所蔵）を参考資料として使用させて頂いた。関係各位に対して厚くお礼を申しあげる。

広島大学理学部 柴 田 喜太郎

参 考 文 献

- 安芸団体研究グループ（1983）：広島県安芸津町付近の後期中生代火成岩類について　MAGMA №.67　13～19
- 早坂康隆・磯崎行雄・原　郁夫（1983）：中国地方西部玖珂層群・鹿足層群からのジュラ紀型散虫化石の発見，地質学雑誌・第89巻・第9号，527～530
- 端山好和他（1975）：瀬戸内海大崎下島の変成古生層と白亜紀火成岩類　地球科学・第29巻・第1号，1～17
- 広島県（1989）：広島県土地利用総合規制図，昭和63年版
- 木崎吉郎他（1963）：広島県地質図，同説明書，広島県
- 楠見　久他（1988）：安芸津で発見された化石カイエビ類，安芸津郷土史を語る会，安芸津風土記，第75号
- 日本建築学会中国支部（1971）：呉地区地盤図，同説明書
- 鈴木哲夫・安芸団体研究グループ（1983）：広島県上蒲刈島の後期中生代火成岩類　MAGMA №.67　21～28

表-11 三津・今治西部図幅中の地層及び岩石一覽表

地質時代		地質系統	地層地質区分		
新生代	第四紀	沖積世	沖積層	砂・粘土・礫 (scg)	未固結堆積物
		洪積世	洪積層	崖錐性碎屑物 (cl) 礫・砂・シルト・粘土 (gsc)	
	第三紀	中新世	新第三紀層	砂宅・泥岩・凝灰質岩 (sg)	半固結堆積物
中生代	白亜紀	花崗斑岩	花崗斑岩質岩石 (Gp)	深成岩	
		花崗岩 (広島型)	花崗岩質岩石 (Gr)		
		閃緑岩	閃緑岩質岩石 (Dr)		
	流紋岩	流紋岩質岩石 (Ry) (流紋岩質～デイサイト質のガラス質溶結凝灰岩・凝灰質頁岩・砂岩・礫岩を含み、一部に安山岩質溶結凝灰岩を伴う。“高田流紋岩類”)	火山性岩石		
	ジュラ紀 ?	中生層 ?	泥質岩 (md) (珪質泥岩・石灰岩・砂岩・チャートを含む。“南帯古生層”)	固結堆積物	
	花崗岩 (領家型)	花崗岩質岩石 (RGr)	深成岩		

Ⅲ 土 壤 図

土 壤 概 説

1 山地及び丘陵地の土壌（林地土壌）

本図幅は県南部に位置し、豊田郡安浦町、安芸津町、竹原市の瀬戸内海に面した本土側と、大崎上島、大崎下島、豊島、上蒲刈島等の島しょ部からなる。

この地域に出現する林地土壌の分布傾向は、概ね次のとおりである。

- ① 気候温暖で降水量が少なく、乾燥し易い環境下にあるため、花崗岩類の全地域と流紋岩の一部地域では、十分な土壌化が行われにくく、未熟土がほとんどを占めている。
- ② 安浦町から安芸津町に分布する流紋岩地域と、大崎上島、大崎下島、豊島の流紋岩地域には褐色森林土が広く出現している。また更にこれらの地域の山頂平坦面や丘陵地では赤褐系の褐色森林土が出現する。
- ③ 大崎上島、大崎下島には古生層粘板岩、石灰岩が小面積に分布し、埴質な褐色森林土や暗赤色土が出現する。

これらの林地土壌は、調査の結果、地質、母材、堆積様式、土色、断面形態の相違により、表-12の8土壌統群12土壌統に分類できた。

表-12 山地及び丘陵地の土壤分類表

土 壤 群	土壤亜群	土壤統群	土 壤 統	記 号	地質・母材	地 形
—	—	岩 石 地	槌 山 統	Tuc	—	山 地
未 熟 土	残 積 性 未 熟 土	粗粒残積性 未 熟 土 壤	吳娑々字1統	Gsa・1	花崗岩類	〃
			吳娑々字2統	Gsa・2	〃	〃
	残 積 性 未 熟 土 壤	三 原 1 統	Mih・1	流紋岩類	〃	
褐 色 森 林 土	乾性褐色	乾性褐色 森 林 土 壤 (黄褐色)	原 山 1 統	Har・1	〃	〃
			宇根山1統	Une・1	古生層粘板岩	〃
	森 林 土	乾性褐色 森 林 土 壤 (赤褐色)	双 三 1 統	Fut・1	流紋岩類	丘陵地及び山頂平坦面
	褐 色 森 林 土	褐 色 森 林 土 壤 (黄褐色)	三 原 2 統	Mih・2	〃	山 地
			原 山 2 統	Har・2	〃	〃
			宇根山3統	Une・3	古生層粘板岩	〃
赤黄色土	赤 色 土	赤 色 土 壤	岡 田 山 統	Oka	—	丘陵地及び山頂平坦面
暗赤色土	暗赤色土	乾性暗赤 色 土 壤	蒲 刈 1 統	Kmg・1	石 灰 岩	山 地

2 台地，低地地域の土壌（農地土壌）

本図幅内に出現する土壌は岩屑土，褐色森林土，灰色台地土，赤色土，黄色土，褐色低地土，灰色低地土及びグライ土である。

分布域は地質，地形の影響を受けて複雑であるが，概略は以下のとおりである。

沿岸部には主として流紋岩に由来する強粘～粘質の褐色森林土，黄色土が分布し，安芸津町の赤崎には強粘質の赤色土が分布している。また，礫質の土壌も分布している。島しょ部には流紋岩，古生層に由来する強粘～粘質の褐色森林土が広く分布し，一部に花崗岩に由来する壤質の褐色森林土が分布している。

分布する土壌の種類は8土壌群，20土壌統群，34土壌統である。

表一13 台地，低地地域の土壌分類一覽

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
岩 屑 土		古 作 統
		田 浦 統
褐色森林土	細粒褐色森林土	貝 原 統
		小 坂 統
		上 統
		寺 の 尾 統
		黒 崎 統
		中粗粒褐色森林土
	礫質褐色森林土	裏 谷 統
		石 浜 統
		五 社 統
灰色台地土	細粒灰色台地土	喜 久 田 統
赤 色 土	細粒赤色土	唐 原 統

2 台地，低地地域の土壤（農地土壤）

本図幅内に出現する土壤は岩屑土，褐色森林土，灰色台地土，赤色土，黄色土，褐色低地土，灰色低地土及びグライ土である。

分布域は地質，地形の影響を受けて複雑であるが，概略は以下のとおりである。

沿岸部には主として流紋岩に由来する強粘～粘質の褐色森林土，黄色土が分布し，安芸津町の赤崎には強粘質の赤色土が分布している。また，礫質の土壤も分布している。島しょ部には流紋岩，古生層に由来する強粘～粘質の褐色森林土が広く分布し，一部に花崗岩に由来する壤質の褐色森林土が分布している。

分布する土壤の種類は8土壤群，20土壤統群，34土壤統である。

表-13 台地，低地地域の土壤分類一覧

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
岩 屑 土		古 作 統
		田 浦 統
褐色森林土	細粒褐色森林土	貝 原 統
		小 坂 統
		上 統
		寺 の 尾 統
	黒 崎 統	
	中粗粒褐色森林土	裏 谷 統
	礫質褐色森林土	石 浜 統
		五 社 統
灰色台地土	細粒灰色台地土	喜 久 田 統
赤 色 土	細粒赤色土	唐 原 統

黄色土	細粒黄色土	大原統 赤山統 鶴木山統
	細粒黄色土, 斑紋あり	蓼沼統 江部乙統
	中粗粒黄色土, 斑文あり	都志見統
褐色低地土	細粒褐色低地土, 斑紋あり	常万統
	中粗粒褐色低地土, 斑紋あり	荻野統 三河内統 長崎統
	礫質褐色低地土, 斑紋あり	大沢統 八口統 井尻野統
灰色低地土	細粒灰色低地土, 灰色系	藤代統
	中粗粒灰色低地土, 灰色系	加茂統
	礫質灰色低地土, 灰色系	国領統
	細粒灰色低地土, 灰褐色	多々良統
グライ土	細粒強グライ土	富曾亀統
	中粗粒強グライ土	芝井統 琴浜統
	礫質強グライ土	蛭子統
	細粒グライ土	千年統

土 壤 細 説

1 山地及び丘陵地域の土壌（林地土壌）

(1) 岩 石 地

槌山統（Tuc）

基岩の露頭の多い山地の部分である。主として海岸線近くに出現する。この土壌統では現植生を極力保護する必要がある。

(2) 残積性未熟土

ア 粗粒残積性未熟土壌

呉娑々宇1統（Gsa・1）

花崗岩類を基岩とする山地の尾根から中腹にかけて分布する未熟土で、この図幅における花崗岩地帯の代表的土壌である。安浦町、安芸津町、竹原市、島しょ部の蒲刈町、豊浜町、大崎町のそれぞれの一部地域に出現している。強度の表面侵食を受けているため、土層は浅く、粗粒質な土壌で、層位の分化は不明瞭である。ところによってはA₀層が欠如して裸地下していたり、あるいはA₀層上部にM層（菌糸網層）がみられることもある。アカマツが生育しているが成長が悪く、せき悪林化している。

呉娑々宇2統（Gsa・2）

呉娑々宇1統と同一地域の谷間に出現する崩積性の未熟土である。斜面上方から、侵食された土砂が崩落し堆積したものであるため、土層は深く軟質である。層位の分化、土壌構造の発達 はあまり進んでいないのが一般的である。ところによってはごく薄いA層が認められるA・C型の断面形態を呈することもある。主にアカマツ林となっているが、その成長は良好である。

イ 残積性未熟土壌

三原1統（Mih・1）

流紋岩類を基岩とする山地の尾根から中腹にかけて分布する未熟土である。安芸津町の風早から赤崎、竹原市の吉名町に出現する。表面侵食を受けており土層は浅い。細粒状構造が発達する薄いA層を伴うが、ところによってはA層が欠如していることもある。土性は全般に砂質で、下層は堅密である。この統の林地はアカマツ林となっているが、その成長は悪い。

(3) 乾性褐色森林土

ア 乾性褐色森林土壌（黄褐色系）

原山1統（Har・1）

流紋岩類を基岩とする山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色（10YR）を呈するものである。安芸津町早田原、

大崎上，下島，豊島等に広く出現する。腐植を含む薄いA層を伴うが，下層への腐植の浸透は乏しい。土性は埴質壤土で，下層では塊状構造が発達することもある。アカマツ，広葉樹の成長は良好なところが多い。

宇根山1統 (Une・1)

古生層粘板岩を基岩とする山地の尾根から中腹にかけて分布する乾性褐色森林土で，土色が黄褐色 (10YR) を呈するものである。竹原市の一部と大崎上島，大崎下島に出現する。粒状ないし細粒状構造を有する薄いA層を伴う埴質な土壤で角礫に富む。下層への腐植の浸透は乏しい。アカマツ林となっているところでは，その成長は良好であり，広葉樹林となっているところも多い。

イ 乾性褐色森林土 (赤褐系)

双三1統 (Fut・1)

流紋岩類を基岩とする山地において，開析の進行していない丘陵地及び山頂平坦面に分布する乾性褐色森林土である。赤色土化作用を強く受けており，土色は赤褐色 (10YR) を呈する。安芸津町離山，同風早，西谷付近竹原市吉名町，大崎町神峰等の平坦地に小面積ずつ点在する。一般に埴質な土壤で下層は堅密である。表層には腐植を含む薄いA層を伴うが，下層への腐植の浸透は乏しい。アカマツはやゝ良好な成長をしている。

(4) 褐色森林土

ア 褐色森林土 (黄褐系)

三原2統 (Mih・2)

流紋岩類を基岩とする山地で，三原1統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土である。土色は黄褐色 (10YR) を呈する。A層は粒状構造のみられるものもあるが，全般に未発達である。層位の区分は不明瞭なことが多く，いわゆる未熟土的傾向が強い。土性は壤土から埴壤土で石礫に富む。腐植の下層への浸透は少なくB_D(d)-1m，B_D-1m型の土壤となっている。アカマツ林が成立しているが，その成長はやゝ良好である。

原山2統 (Har・2)

流紋岩類を基岩とする山地で，原山1統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土である。土色は黄褐色 (10YR) を呈する。安芸津町早田原，大崎町神峰山周辺等に出現する。粒状から団粒状構造の発達した腐植に富むA層を有し，下層への腐植の浸透も進んでおり，やゝ埴質な土壤で，石礫に富む。ヒノキが植栽されていることが多く，アカマツ林も一部に残っているが，これらは共に良好な成長をしている。

宇根山 3 統 (Une・3)

古生層粘板岩を基岩とする山地で宇根山 1 統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土である。土色は黄褐色 (10YR) を呈する。大崎上島, 大崎下島の一部に出現する。粒状から団粒状構造の発達した腐植に富む A 層を有し, 下層への腐植の浸透も進んでおり, 埴質な土壌で角礫に富む。これらの山地はクヌギを主体とした広葉樹林となっているところが多く, その成長は良好である。

(5) 赤色土

ア 赤色土壌

岡田山統 (Oka)

開析の進行していない丘陵地や山頂平坦面に出現する赤色 (2.5 Y R) を呈する土壌である。安芸津町赤崎周辺に分布する埴質な土壌で下層は堅密である。アカマツ林となっているところが多いが, その成長は悪い。

(6) 暗赤色土

ア 乾性暗赤色土壌

蒲刈 1 統 (Kmg・1)

石灰岩を基岩とする山地の尾根から中腹にかけて出現する乾性暗赤色土である。大崎上島にごく小面積分布する。薄い A 層を伴うが腐植の下層への浸透は進んでいない。角礫を含み土性はかなり埴質である。アカマツ林, 広葉樹林となっているが, その成長はやゝ不良である。

各土壌統の代表地点及び断面柱状図は「土壌図」に記載してある。

広島県立林業試験場

入 口 誠
田 辺 紘 毅
升 原 一 介

2 台地，低地地域の土壌

(1) 岩屑土

本土壌は山地丘陵地の斜面に分布するもので，土層は浅く，30cm以内より下が礫層となり，さらにその下部は岩盤に移行する。礫層上の土性は強粘質から壤質までにわたっている。

堆積様式は残積であり，母材は固結堆積岩ならびに固結火成岩が多い。

ア 古作統 (Ksk)

主として固結堆積岩，固結火成岩に由来する残積生の土壌で30cm以内より下が礫層となり，さらにその下部は岩盤に移行する。礫層上の土性は強粘～壤質である。表層腐植層はなく，次表層の反応は弱酸性である。

本図幅の沿岸部，竹原市，豊田郡安芸津町に分布する。

イ 田浦統 (Tur)

本土壌は古作統に類似するが，次表層の反応が強酸性を示すことにより古作統と区別される。

本図幅の沿岸部，豊田郡安芸津町に分布する。

(2) 褐色森林土

本土壌は暗褐色の表層をもち，その下に黄褐色の次表層がある。母材は固結堆積岩，固結火成岩などで，堆積様式は残積，洪積世堆積，崩積である。分布する地形は山麓，丘陵地の斜面および台地上の平坦地である。

ア 細粒褐色森林土

貝原統 (Kid)

本土壌は主に固結堆積岩に由来する残積性の土壌で，主要土層の土性は強粘質で，土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。未風化小角礫を含む場合がある。

本図幅の沿岸部，島しょ部に分布する。

小坂統 (Ksa)

本土壌は貝原統に類似するが，次表層の反応が強酸性を示すことにより貝原統と区別される。

本図幅の沿岸部，竹原市下野町，吉名町に分布する。

上 統 (Kmi)

本土壌は主に固結堆積岩に由来する残積性の土壌で，主要土層の土性は粘質で，土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。

本図幅の島しょ部に分布する。

寺の尾統 (Trn)

本土壌は上統に類似するが，次表層の反応が強酸性を示すことにより

上統と区別される。

本図幅の沿岸部，豊田郡安芸津町木谷に分布する。

黒崎統 (Krs)

本土壤は崩積性の土壌で，主要土層の土性は粘質で，土色は黄褐色を呈する。

本図幅の島しょ部，豊田郡豊町大長に分布する。

イ 中粗粒褐色森林土

裏谷統 (Jrt)

本土壤は主に固結火成岩（花崗岩）に由来する残積性の土壌で，主要土層の土性は壤質で，土色は黄褐色を呈する。

本図幅の島しょ部に分布する。また，沿岸部にも点在している。

ウ 礫質褐色森林土

石浜統 (Ihm)

本土壤は土層30～60cm以内より下部が礫層となる残積性の土壌で，礫層ならびに礫層上部の土性は強粘～粘質である。土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。

本図幅の島しょ部，豊田郡木江町，豊町，豊浜町に分布する。

五社統 (Gsh)

本土壤は土層30～60cm以内より下部が礫層となる残積性の土壌で，礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土色は黄褐色を呈する。

本図幅の島しょ部，豊田郡豊浜町に分布する。

(3) 灰色台地土

本土壤は主として台地，丘陵地及びその斜面に分布し，全層またはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壌である。一般に土層中に斑紋が存在する土壌である。母材は一定しないが，堆積様式は残積，崩積及び洪積世堆積である。

ア 細粒灰色台地土

喜久田統 (Kik)

本土壤は残積性あるいは洪積世堆積性の土壌で，主要土層の土性は粘質で，土色は灰色ないし灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在するが，マンガン結核はみられない。

本図幅の沿岸部，豊田郡安芸津町赤崎に分布する。

(4) 赤色土

本土壤は主として丘陵果，台地に分布し，全層またはほぼ全層が赤色ないし赤褐色を呈する土壌である。堆積様式は残積あるいは洪積世堆積であ

る。

ア 細粒赤色土

唐原統 (Tbr)

本土壤は残積性の土壤で、主要土層の土性は強粘質で、土色は赤色ないし赤褐色を呈する。次表層の反応は強酸性である。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町赤崎に分布する。

(5) 黄色土

本土壤は主として丘陵地、台地及びその斜面に分布し、全層またはほぼ全層が黄色(黄褐色)を呈する土壤で、堆積様式は残積あるいは洪積世堆積である。水田利用の場合には土層中に斑紋が存在する。

ア 細粒黄色土

大原統 (Ohr)

本土壤は残積性の土壤で主要土層の土性は強粘質である。土色は黄色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。

本図幅の沿岸部、竹原市下野町、豊田郡安芸津町ならびに島しょ部の豊田郡大崎町に分布する。

赤山統 (Aky)

本土壤は大原統に類似するが、次表層の反応が強酸性を示すことにより大原統と区別される。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町に分布する。

鶴木山統 (Trg)

本土壤は赤山統に類似するが、主要土層の土性が粘質であることにより赤山統と区別される。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町、安浦町に点在する。

イ 細粒黄色土、斑紋あり

蓼沼統 (Tdn)

本土壤は水田利用の結果、土層中に斑紋をもつに至った土壤である。堆積様式は残積あるいは洪積世堆積である。主要土層の土性は強粘質で、土色は黄色(黄褐色)を呈する。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町に分布する。

江部乙統 (Ebe)

本土壤は蓼沼統に類似するが、主要土層の土性が粘質であることにより蓼沼統と区別される。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町に分布する。

ウ 中粗粒黄色土，斑紋あり

都志見統 (Tsm)

本土壤は水田利用の結果，土層中に斑紋をもつに至った土壤である。堆積様式は残積あるいは洪積世堆積である。主要土層の土性は壤質で，土色は黄色（黄褐色）を呈する。

本図幅の沿岸部，豊田郡安芸津町と島しょ部，安芸郡浦刈町に分布する。

(6) 褐色低地土

本土壤は沖積低地に分布する土壤のうち，主要土層の土色が黄褐色を呈する土壤で，地下水位はおおむね低い。地下水位の変動や水田利用の結果，土層中に斑紋や結核をもつことが多い土壤である。

ア 細粒褐色低地土，斑文あり

常万統 (Jom)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で，主要土層の土性は粘質で，土色は黄褐色を呈する。土層中に斑紋がみられる。

本図幅の沿岸部，豊田郡安浦町女子畑に分布する。

イ 中粗粒褐色低地土，斑紋あり

荻野統 (Ogn)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で，主要土層の土性は壤質で，土色は黄褐色を呈する。土層中に斑紋がみられる。

本図幅の沿岸部，豊田郡安芸津町に分布する。

三河内統 (Mik)

本土壤は荻野統に類似するが，土層中にマンガン結核がみられることにより荻野統と区別される。

本図幅の沿岸部，竹原市吉名町に分布する。

長崎統 (Ngs)

本土壤は荻野統に類似するが，主要土層の土性が砂質であることにより荻野統と区別される。

本図幅の沿岸部，竹原市に分布する。

ウ 礫質褐色低地土，斑紋あり

大沢統 (Osw)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で，土層30～60cm以内より下部が礫層となる土壤で，礫層ならびに礫層上部の土性は強粘～粘質である。土色は黄褐色を呈する。土層中に斑紋がみられる。

本図幅の沿岸部，豊田郡安芸津町，安浦町に分布する。

八口統 (Ytg)

本土壤は大沢統に類似するが、主要土層の土性が壤～砂質であることにより大沢統と区別される。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町、安浦町に分布する。

井尻野統 (Ijr)

本土壤は大沢統に類似するが、土層0～30cm以内より下部が礫層となることにより大沢統と区別される。土性は多岐にわたる。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町、安浦町に分布する。

(7) 灰色低地土

本土壤は沖積低地に分布し、全層あるいはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壤であるが、下層に腐植質火山灰層、泥炭層及び黒泥層などが埋没したものも含まれる。地下水位の変動や水田利用の結果、土層中に斑紋や結核をもつことが多い土壤である。

ア 細粒灰色低地土、灰色系

藤代統 (Fjs)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は粘質で、土色は灰色を呈する。土層中に斑紋がみられる。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町に分布する。

イ 中粗粒灰色低地土、灰色系

加茂統 (Km)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は壤質で、土色は灰色を呈する。土層中に斑紋がみられる。

本図幅の沿岸部、竹原市に分布する。

ウ 礫質灰色低地土、灰色系

国領統 (Kok)

本土壤は土層0～30cm以内より下部が礫層となる水積性の土壤で、土色は灰色を呈する。土性は多岐にわたる。

本図幅の沿岸部、竹原市、豊田郡安芸津町に分布する。

エ 細粒灰色低地土、灰褐色系

多々良統 (Ttr)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壤で、主要土層の土性は粘質で、土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋とマンガン結核がみられる。

本図幅の沿岸部、竹原市吉名町に分布する。

(8) グライ土

本土壤は沖積低地に分布し、全層もしくはほぼ全層がグライ層からなるか、次表層がグライ層からなり、泥炭、黒泥または腐植質火山灰の埋没土層をもつか、あるいは次表層は灰色土層からなり、下層はグライ層からなる土壤などを含んでいる。一般に表層腐植層はない。母材は非固結堆積岩が主であるが、ときに下層が植物遺体、非固結火成岩の場合がある。

ア 細粒強グライ土

富曾亀統 (Fsk)

本土壤は全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壤で、主要土層の土性は強粘質である。土層の上部30cm以内に斑紋をもつ。

本図幅の沿岸部、竹原市に分布する。

イ 中粗粒強グライ土

芝井統 (Shb)

本土壤は全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壤で、主要土層の土性は壤質である。土層の上部30cm以内に斑紋をもつ。

本図幅の島しょ部、豊田郡東野町、大崎町、木江町ならびに安芸郡蒲刈町に分布する。

琴浜統 (Kot)

本土壤は芝井統に類似するが、主要土層の土性が砂質であることにより芝井統と区別される。

本図幅の沿岸部、竹原市吉名町、豊田郡安芸津町赤崎に分布する。

ウ 礫質強グライ土

蛭子統 (Ebs)

本土壤は全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壤で、土層30～60cm以内より下部が礫層となる土壤で、礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土層の上部30cm以内に斑紋をもつ。

本図幅の沿岸部、竹原市に分布する。

エ 細粒グライ土

千年統 (Cht)

本土壤は土層50cm内外より下部がグライ層となる土壤で、主要土層の土性は粘質である。土層中に斑文はみられるが、マンガン結核はない。

本図幅の沿岸部、豊田郡安芸津町に分布する。

IV 水系及び谷密度図

本図幅には、海域の部分が広く、陸域が分断されているために水系のまとまった議論ができていく地域となっている。おもな陸域の分布範囲は、北部の安芸津町を中心に三津湾を取り囲む本土側と、その南の海域中に丁度湾を取り囲むように島々が弧状に連なっている。東側には、島の主軸が北東方向に走る大崎上島がある。南側には、その南に広がる斎（いつき）灘と境をなし、島の主軸が東西方向へと続く大崎下島と豊島を中心とする島しょ部からなっている。

水系のおおまかな傾向は、本図幅の周辺地域の水系と同様に、北西—南東方向の谷とそれに斜交する北東—南西方向の谷が卓越している。水系の主方向の地域差があり、三津湾の北岸付近では北北西—南南東方向の谷が顕著である。また、灘山の東斜面（地形区分のI f'）では、孤立した山塊を反映して放射状の谷が顕著である。

本図幅内の谷密度分布に注目してみると第1表に示したように、谷密度は0—43の範囲にあり、そのうち26—35あたりで出現頻度が最も高くなっている。この傾向は、本図幅のすぐ東の尾道・土生図幅でも同様である。

表—14 谷密度の段階別出現頻度

谷密度	0—5	6—10	11—15	16—20	21—25	26—30	31—35	36—40	41—45
出現頻度	87	30	25	16	26	25	23	14	6
	(1)	(0)	(0)	(5)	(11)	(16)	(18)	(13)	(6)

注) () 内の数字は海を含むメッシュを除いた資料による。

海を含むメッシュを取り除いた範囲で谷密度を地域別にみると、本図幅全域の平均は29.3、本土では29.7、島しょ部では28.6となり、有為な差は認められない。

つきに地質との関係をみてみよう。本図幅にもっとも広く分布する岩石は、白亜紀後期に噴出したデイサイト一流紋岩溶結凝灰岩、凝灰質砂岩・泥岩・礫岩などからなる、いわゆる高田流紋岩類である。その主な分布域は、三津湾の北岸から西岸地域（地形区分の I a, I b, I c, I f, II a, II e など）と大崎上島の主軸部（I j, I k）、大崎下島の中北部（I n の北半分）である。

これ以外の主な岩石としては、同じく白亜紀後期の広島花崗岩類があり、おもに本土側では、三津口湾に面した安浦の安浦南山地（I g）、安登山地（I h）、島しょ部では、大崎上島の原田丘陵地周辺（II i, II h, II f）や大崎下島の山地（I n）南西部や豊島山地（I m）の南西部と尾久比島丘陵地（II k）に分布する。他には、中生代ジュラ紀の堆積岩である礫質泥岩および泥岩が、大崎下島の中南部にはば東西に帯状分布している。

以上の岩石のうち、流紋岩類の地域では一般に谷密度が高くなる傾向が指摘できる。とくに、図幅の北西部の茂助山山地（I a）、蚊無山山地（I b）や大崎上島の南西端の権現山山塊は、谷密度が35以上と高い。同じ流紋岩類の地域でも、三津湾東岸の赤崎丘陵地（II a）などは、30以下と低い値である。これは、地質の差というよりも地形的に後者の地域が前者よりも、侵食基準面に相当する海水準面との比高が小さくなって、開析が進んだ結果と考えられる。

なお、すでに述べた大崎上島と下島の花崗岩地域では、谷密度が30以下と低い値になっている。この値は、他の瀬戸内沿岸の花崗岩地域のものに比べてより低い値である。これは、本地域の島しょ部では、開析がより進み比高が小さくなっていることも関係していると考えられる。

広島大学文学部	藤原健蔵
広島大学総合科学部	堀信行
同　　上	菅浩伸

V 傾 斜 区 分 図

傾斜区分図は5万分の1地形図上の等高線の間隔から地形の傾斜を読み取って作成した。本図幅中の地形は竹原市・安芸津町・安浦町・大崎上島の臨海地を除けば、全体的に急傾斜地の卓越する山地が大部分を占める。

傾斜3度未満の地域は竹原市・安芸津町・安浦町・大崎上島北西部の臨海低地、谷底平野に主として分布する。臨海低地は沖積平野よりも干拓地・埋立地の面積の割合が高い。その他、大崎下島・豊島・上蒲刈島等にも小規模ながら認められる。

傾斜3～8度および8～15度の地域は安芸津町・安浦町・竹原市の山麓地や大崎上島・長島の花崗岩丘陵地、大芝島・生野島等の流紋岩丘陵地に広く分布する。傾斜15～20度の地域は山麓地・山腹地に主に分布し、一部は山頂付近にも認められる。

傾斜20～30度の地域は安芸津町西部、大崎下島西半部、豊島、大崎上島の山地に分布する。これらは流紋岩・花崗岩・古生層の山地である。

傾斜30～40度の地域は大崎上島の東部から南部に続く流紋岩山地や、大崎下島東半部の古生層・流紋岩山地、安芸津町西部の流紋岩山地等に尾根を取り巻くように分布する。

傾斜40度以上の地域は本図幅内にはほとんど認められず、山地の中に点在する程度である。

傾斜と土地利用の関係についてふれると、傾斜0～3度の平野は主として宅地・水田・果樹園に利用されるが、干拓地や埋立地の中には荒地となっている部分も多い。3～15度の緩傾斜面では畑地・果樹園が多いが島しょ部では宅地となっている部分も多い。15～20度では果樹園・林地が多いが島しょ部では一部宅地となっている。20～30度となると宅地はほとんど認められず、果樹園・林地が多い。30度以上になると、林地が圧倒的に多くなるが、島しょ部では果樹園も一部地域で認められる。傾斜地の土地利用は島しょ部で積極的に行われている。

広島大学 文学部	藤原 健藏
広島大学総合科学部	堀 信行
広島大学 文学部	町田 伸一

VI 土地利用現況図

1 農 地

本図幅には竹原市，豊田郡安芸津町ならびに安浦町の一部と島しょ部の豊田郡東野町，大崎町，木江町，豊町，豊浜町及び安芸郡蒲刈町の一部が含まれる。

本図幅内の山麓，山腹斜面には樹園地，普通畑が広く分布しており，温暖な気象条件を生かして柑橘類と野菜の栽培が盛んである。とくに，島しょ部では経営耕地面積の90%程度が樹園地で占められており，ほとんど柑橘類が栽培されている。沿岸部の安芸津町では経営耕地面積に占める樹園地の割合は28%，普通畑の割合は23%で（昭和60年），樹園地では柑橘類とビワなどが栽培されている。普通畑ではバレイショが広く栽培されており，気象条件を生かして春，秋の2回作付が行われ，安芸津町の農業粗生産額の33%を占めている（昭和60年）。また，竹原市においてもバレイショの栽培が盛んである。

近年，柑橘類の栽培は，温州ミカンの価格低迷，オレンジの輸入自由化など問題が多く，高品質化あるいは柑橘類に変わる作物の導入が必要である。

本図幅内の水田は主に沿岸部から内陸部にかけての山間の狭小な谷間に分布しており，まとまった広がりは見られない。

広島県立農業試験場 谷本俊明

2 林 地

本図幅は、豊浜町・豊町・大崎町・東野町・木江町の島しょ部と竹原市・安芸津町・安浦町の沿岸部からなっている。

この地域は、年間降水量1,200～1,400ミリメートル、年平均気温15度弱と比較的温暖少雨の気象条件とコシダ等の着火しやすい下層植生の状況等から林野火災の発生が多く、その跡地は山地災害の発生要因になるため、早期緑化を図る必要がある。

樹種別の森林は、沿岸部では天然アカマツ林、島しょ部ではコナラ等の落葉広葉樹林が主で、ともに約6割程度を占めている。

また、地質は、花こう岩と流紋岩で土壌は乾性褐色森林土と未熟土であるため、林木の成長はあまり良くない。

病害虫についてみると松くい虫の被害量は横ばいから減少の傾向となっているが、今後も予防及び駆除を総合的に実施して被害の早期終息と被害跡地の早期復旧を図る必要がある。

森林の機能は保健休養機能が比較的高く、安浦町のグリーンピア安浦や瀬戸内海国立公園に指定されている木江町の神峰山、豊町の一峰寺山が特記される。

上記の保健休養機能だけでなく、山地災害防止機能や、水源かん養機能を高め、土砂崩壊等の災害を防ぐことにより、公益的機能の高度発揮を目指した、健全な森林の育成を図ることが必要である。

表一15 森林（民有林）面積構成比

（単位：％）

区 分 市町名	人 工 林	天 然 林		そ の 他	計
		針 葉 樹	広 葉 樹		
竹 原 市	12	42	40	6	100
豊 田 郡 安 芸 津 町	22	50	27	1	100
豊 田 郡 安 浦 町	9	75	10	6	100
豊 田 郡 豊 浜 町	7	31	61	1	100
豊 田 郡 豊 町	5	10	84	1	100
豊 田 郡 大 崎 町	10	42	45	3	100
豊 田 郡 東 野 町	3	29	63	5	100
豊 田 郡 木 江 町	7	36	50	7	100

（注）本図幅を構成する市町をあげた。

資料：広島県林務部林政課「芸南森林計画区地域森林計画書」

（S 62.4.1）

広島県林務部林政課 土 井 一 郎
森 川 豪

1990年3月 印刷発行

都道府県土地分類基本調査

三津・今治西部

編集発行 広島県企画振興部地域振興課

広島市中区基町10-52

TEL (082) 228-2111

印刷株式会社 三 共

TEL (082) 228-7163